

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	音楽科教育法		
担当者(Instructors)	水野 伸子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
学習指導要領「音楽」の示す目標及び内容や、児童の認識・思考、学力等の実態や発達の道すじを理解する。教科書教材の指導に必要となる基礎的な知識・技能を身につけ、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計と学習指導案の作成を行う。模擬授業を実施し、評価の考え方を理解し授業改善の視点を身につける。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	講義ならびに演習形式で行う。 模擬授業ではディスカッションを、音楽づくりではグループワークを取り入れる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	学校教育で教科として音楽を学ぶ意味	学校教育に音楽の教科があるのはなぜか。音楽科教育が担う役割、新学習指導要領が示す目標、それらと関連付けて本授業の目的を理解するとともに、自己課題を明確にする。	□
第2回	音楽科教育の歴史的変遷	我が国における音楽科教育の歴史的変遷を学び、音楽科教育が伝統音楽と西洋音楽をどのように扱い、何を大事にしてきたのかを理解する。	□
第3回	小学校学習指導要領（音楽）の内容	学習指導要領の目標及び内容を理解し、幼児期の発達を踏まえた指導、音楽的な見方・考え方を働かせた学習とはどういうことかをグループでの意見交流を通して学ぶ。	□
第4回	教科書研究（教材分析）	各学年で育成する資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力等）を、学年グループに分かれて、現行の教科書の教材分析を資料をもとに行い意見交流する。	□
第5回	題材構成の内容と考え方	教材と題材の違いを整理して理解し、題材構成の考え方を事例から学ぶ	□
第6回	教材曲の分析、構造や曲想との関連、情報機器及び教材の効果的な活用法	教材曲の分析を、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みの観点から行い、曲想や音楽の構造との関連から理解する。	□
第7回	歌唱の内容と発達段階に即した学習指導理論	学童期の発声における発達の道筋を知り、教科書の構成から歌唱指導の内容を整理するとともに指導の留意点を理解する。	□
第8回	歌唱の内容と表現を引き出す指揮法	教材曲を選び、指導案の展開部分を実際に作成する作業を通して、歌唱の授業内容を理解する。表現を引き出す実践的指揮法を学ぶ。	□
第9回	器楽の内容と指導の留意点、指導案の作成	楽器の特性を生かした器楽活動の内容を理解し、歌唱とは違う味わいを感じ取り、器楽指導の留意点を学ぶ。実際に、合奏の楽しさや難しさを体験しながら指導案の展開を考える。	□
第10回	音楽づくりの指導の留意点、指導案の作成	反復、呼びかけとこたえ、変化などの音や音楽のつなげ方、重ね方から音楽の仕組みを学び、思いや意図をもって全体のまとまりを意識した音楽づくりを、実際に体験する。	□
第11回	鑑賞の内容と指導の留意点、指導案の作成、情報機器及び教材の活用	児童の鑑賞能力を発達に即して段階的に整理し、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを手がかりに、能動的・創造的に鑑賞する方法を理解する。	□
第12回	伝統的な音感覚と日本音楽の授業設計	わらべうたや民謡などがもつ伝統的な音感覚の良さを知り、日本の楽器による演奏を鑑賞し、伝統的な音感覚を理解する。	□
第13回	サウンドスケープと授業改善の視点	マリーシェーファーが提唱するサウンドマップ、サウンドスケープ等の音に着目した音楽教育の内容を実際に体験することにより、人と音との関係を民俗学的視点から捉え直す。	□

第14回	評価の在り方・指導要録の内容	指導計画や授業の展開との関連から児童の学習を充実させていく「指導に生かす評価」と、年度末等に総括的に行う「記録に残す評価」の考え方や内容を理解する。	☐
第15回	教材曲の分析をもとに指導案の作成	自分で選択した教材曲を分析し、曲想と音楽の構造などとの関わりを理解した上で、学習指導案を作成する。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details) ・事前学習として、次の授業で学ぶ歌唱共通教材の歌詞を読み、リズムと音程を別々に読譜したり、次の授業で学ぶりコーダー演奏曲の読譜をし、練習してくる（2時間程度）。 ・事後学習では、授業で出された課題をテキストに記入する（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback) 提出されたレポートは添削して返却する。
--

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019子ども発達DP2	音楽的な見方・考え方を働かせて学習するとは、どのようなことかを説明できる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	教材曲を分析し、それを生かした表現を目指す姿としてイメージした指導案を作成することができる。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
0%	0%	0%	70%	30%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 授業内課題レポート				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「小学校学習指導要領解説 音楽編」（平成29年6月告示 文部科学省）	
2	小学校教科書『小学校音楽1～6』（教育出版）	
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		